

受賞技術	後方回転・自走式手延機解体装置
技術開発者	加地 敦志
	
受賞にあたって	
<p>この度は、第26回国土技術開発賞優秀賞を授かり、誠に身に余る光栄です。本装置の開発・製作・試験施工や現場施工、さらには、本賞への申請に当たっては、社内の各所からも多くの方々のご支援を頂いており、皆様に感謝しています。後方回転式手延機解体装置の開発業に携わり、このような素晴らしい賞を受賞できたことは、一技術者として誇りにも思います。五十歳を過ぎて難病の網膜色素変性症と診断され、身体障害者(視覚障害者)になりましたが、六十代後半の今も実務に携わっています。長く続けてきたご褒美なのかな、などとも感じています。過去に国内外の橋梁架設計画や仮設備設計、施工管理などに携わり、問題解決に尽力してまいりましたが、今後も多少なりとも橋梁の施工を通して社会貢献に寄与できればと思っています。</p>	
受賞後の動き	
<p>引き続き 大阪計画部に勤務しています。業務内容も従来と同様で一般橋梁や斜張橋の架設計画の支援・補助などが中心です。2018年3月以降、安全施工ワーキンググループ(WG)に参画して「橋脚を通過できる開閉式足場解体用移動足場」の開発を担当した経緯もあり、引き続き安全施工に関するWGにも参加して安全な設備の提案や開発の支援などの業務にも関わっています。これらの安全施工に関する支援、橋梁計画・設備設計のほか、今後は、若手技術者への技術伝承にも注力したいと思っています。コロナ以降、週2日出勤、週3日在宅勤務のペースで勤務しており、今しばらくは、頑張ろうと考えています。</p>	